

捕獲等事業評価シート
(ニホンジカ)

富山県生活環境文化部自然保護課

STEP 1 予定通りの作業ができたか、効率的な捕獲ができたか評価する。

■ 事業概要

事業実施地域	黒部市区域、富山市区域、高岡市区域、砺波市区域、南砺市区域、氷見市区域、小矢部市区域
事業主体	富山県生活環境文化部自然保護課
事業実施期間	令和6年5月18日～令和7年3月10日
捕獲手法	くくりわな、かこいわな、巻き狩り
事業メニュー	②捕獲等メニュー
事業費	3,417千円（※）

（※）捕獲コスト把握のため本事業地にかかる事業費のみ記載

■ 事業の評価

評価項目	当初予定	実績	評価
捕獲目標	合計 43 頭	くくりわな： 34 頭 かこいわな： 0 頭 巻き狩り： 17 頭 計 51 頭	捕獲目標の達成率は119%であった。
捕獲作業量	くくりわな：46,500 台日 かこいわな： 1,395 台日 巻き狩り： 20 回	くくりわな：40,922 台日 かこいわな： 1,233 台日 巻き狩り： 45 回	くくりわなの作業量が少なかったものの、巻き狩りの回数を増やして対応し、ほぼ計画どおりの作業量を投じることができた。
効率的な捕獲	くくりわな 0.081 頭/100 台日 かこいわな 0 頭/100 台日 巻き狩り 0.039 頭/人日 ※前年度事業の実績	くくりわな 0.083 頭/100 台日 かこいわな 0 頭/100 台日 巻き狩り 0.045 頭/人日	くくりわな、巻き狩りで捕獲効率がわずかに増加した。
事業に要した人員数	チーム員数 計 169 人 ※前年度事業の実績	チーム員数 計 154 人	前年度よりチーム員数が減少した。高齢化などの理由で活動を休止したチームがあった。
安全管理体制	指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画として提出	提出した計画に沿って作業を行った。人身事故やその他の事故は発生しなかった。	計画どおり事業は遂行された。
捕獲個体の処分方法	指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画に記載したとおり、チーム毎に指定の場所で埋設、自治体の焼却施設での焼却または自家消費	提出した計画に沿って作業を行った。獣による掘り起こし等は発生しなかった。	計画どおり事業は遂行された。
環境への影響への配慮	・非鉛製銃弾を使用 ・クマ等の痕跡が見られた場合はわなを移設し、錯誤捕獲を防止	・非鉛製銃弾を使用 ・クマ等の痕跡が見られた場合はわなを移設し、錯誤捕獲を防止	計画どおり事業は遂行された。
捕獲個体の属性	・オス 21 頭、メス 26 頭 ・成獣 41 頭、幼獣 6 頭 ※前年度事業の実績	・オス 26 頭、メス 25 頭 ・成獣 45 頭、幼獣 6 頭	オスの割合、成獣の割合がわずかに増加した。

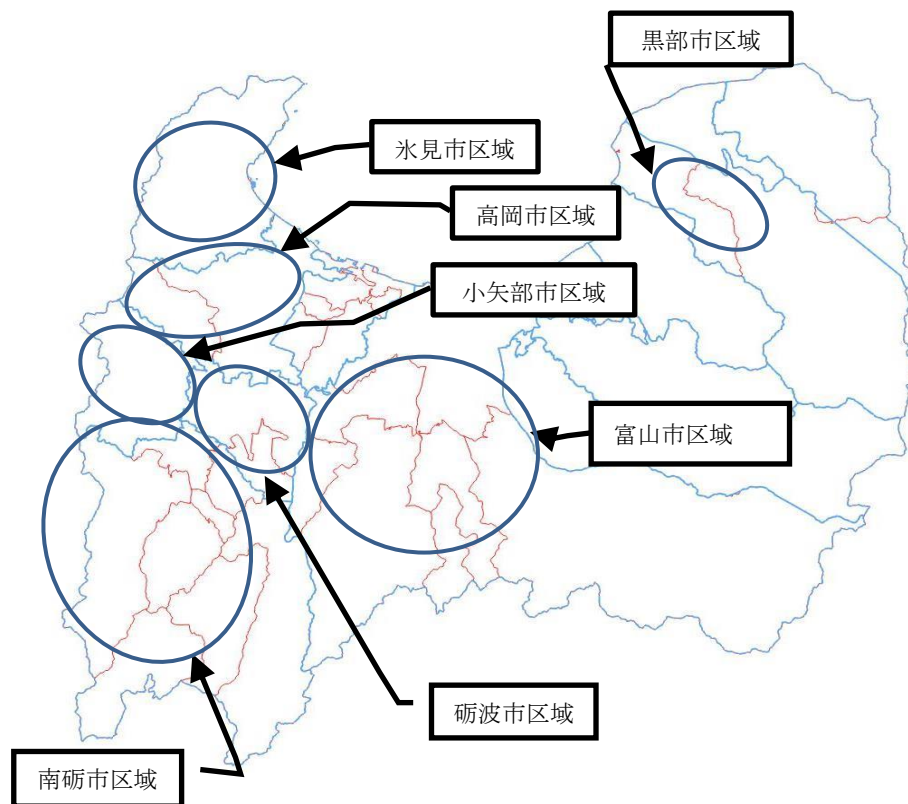


図1 事業実施地域

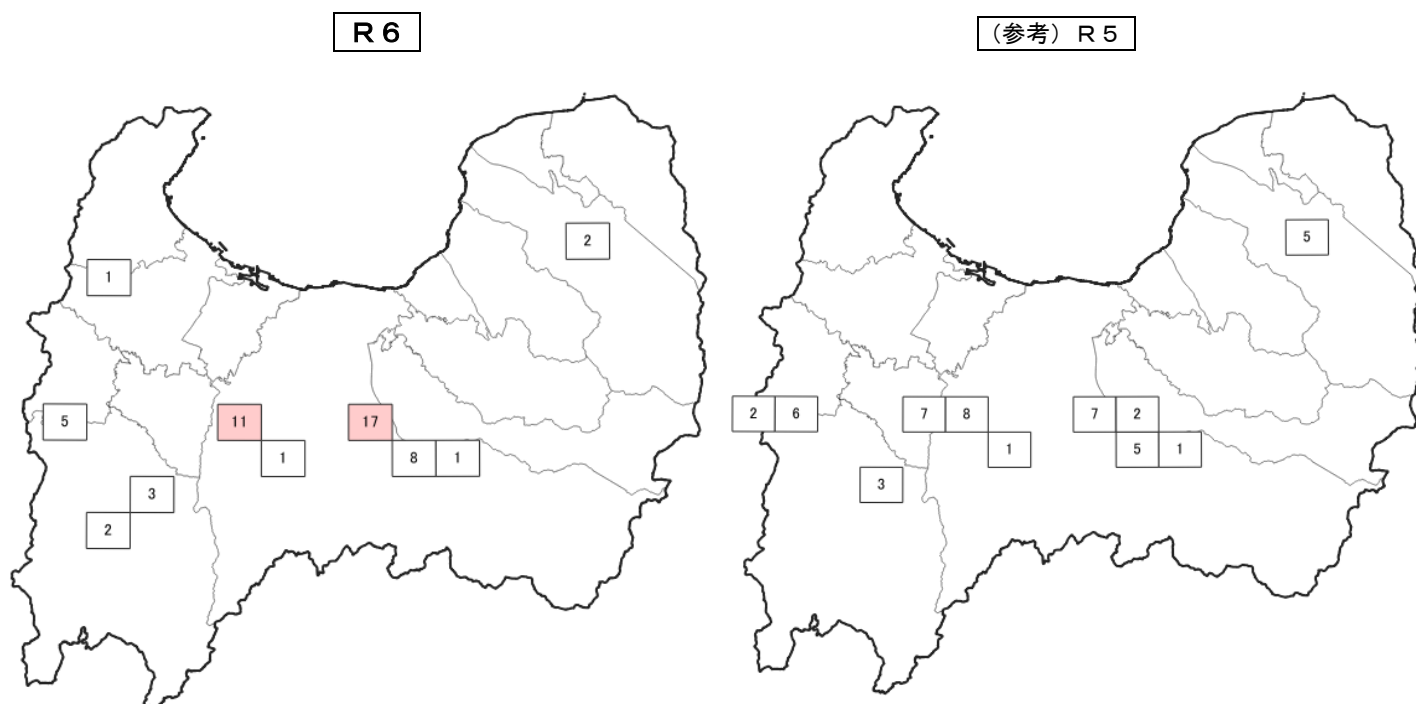


図2 ニホンジカの捕獲数及び捕獲地点（5kmメッシュ）【わな+銃】

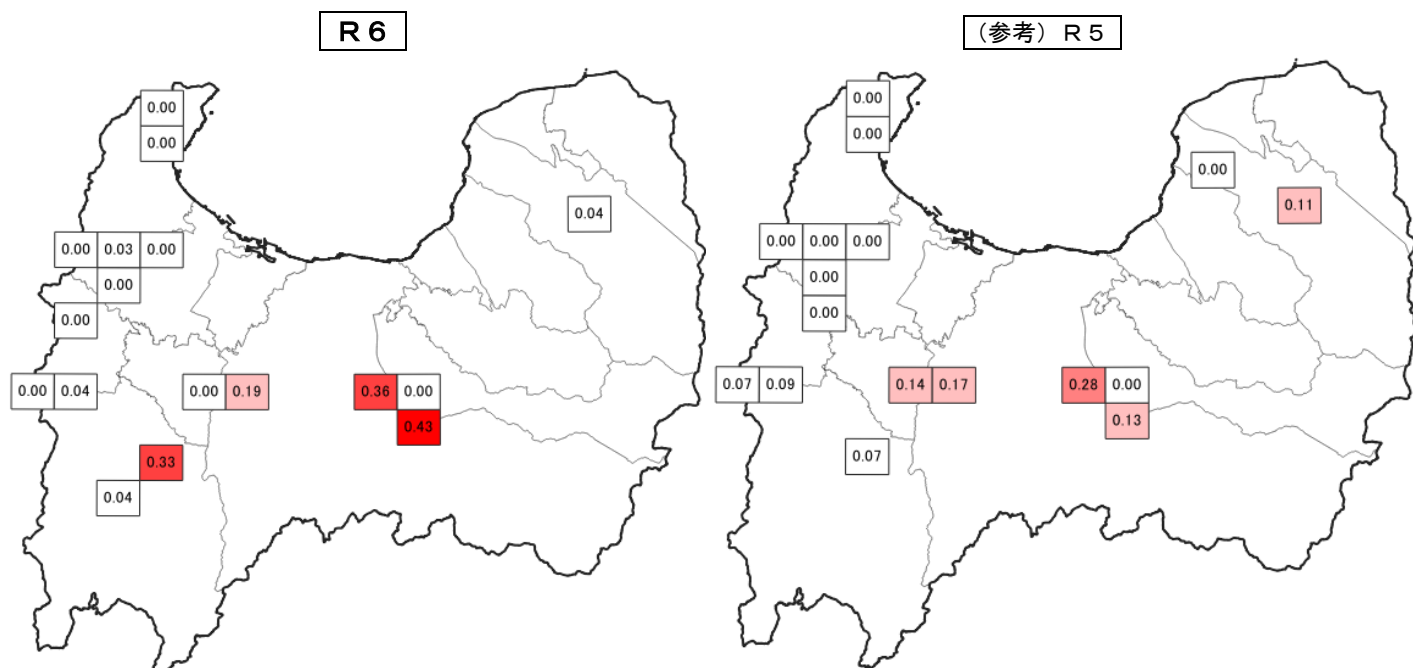


図3 ニホンジカの CPUE※（わな、5kmメッシュ）
（※わな 100 台日当たりの捕獲数）

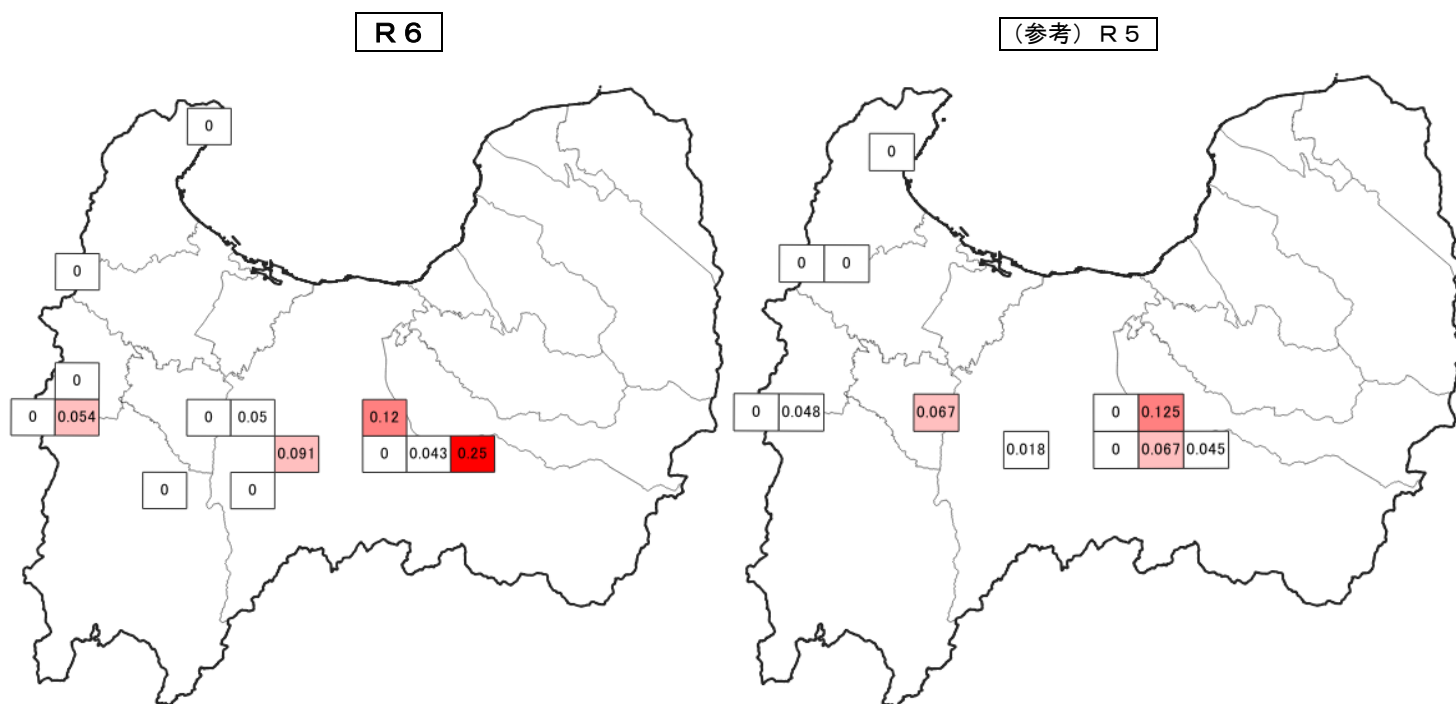


図4 ニホンジカの CPUE※（銃、5kmメッシュ）
（※出猟人日当たりの捕獲数）

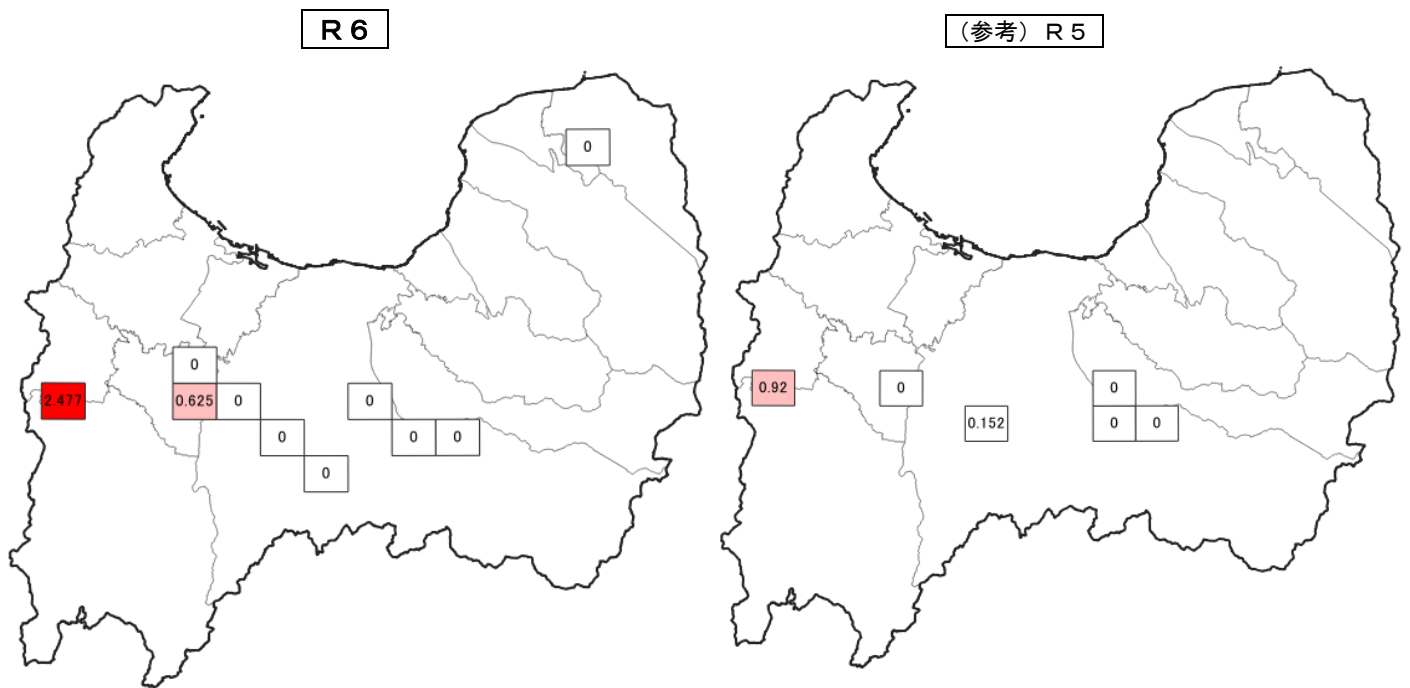


図5 ニホンジカの SPUE※（5kmメッシュ）
（※出猟人日当たりの目撃数）

表1 ニホンジカの月別・チーム別の捕獲頭数

		大山		八尾		福光		城端		黒部		宇奈月		高岡		福岡		砺波		氷見		小矢部		計	
		R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5
捕獲数	4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5月	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0
	6月	1	0	2	2	0	0	3	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	6	5
	7月	4	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5	6
	8月	2	2	3	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	5	6
	9月	2	5	3	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	6	11
	10月	5	0	2	4	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	2	0	11	6
	11月	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	12月	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	1月	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	2	7
	2月	8	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	1
	3月	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	5	2
	計	26	15	12	9	0	2	5	3	0	0	2	5	1	0	0	0	0	7	0	0	5	6	51	47
猟具別捕獲数	くくりわな	14	8	10	8	—	2	5	3	—	0	2	5	1	0	0	0	0	6	0	0	2	4	34	36
	囲いわな	0	0	—	—	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	銃	12	7	2	1	—	—	0	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	1	0	0	3	2	17	11
作業量	くくりわな	3,199	3,876	4,928	4,660	—	2,904	4,470	4,470	—	1,490	4,260	4,320	3,271	4,201	5,665	5,685	5,548	4,220	3,990	4,230	5,591	4,650	40,822	44,706
	囲いわな	127	96	—	—	157	142	—	—	—	68	145	161	163	142	187	185	176	140	111	124	167	67	1,233	1,125
	銃	183	128	55	57	—	—	10	—	—	—	—	—	—	4	33	13	22	17	15	12	58	49	376	280
捕獲効率 CPUE	くくりわな	0.44	0.21	0.20	0.17	—	0.07	0.11	0.07	—	0.00	0.05	0.12	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.14	0.00	0.00	0.04	0.09	0.08	0.08
	囲いわな	0.00	0.00	—	—	0.00	0.00	—	—	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	銃	0.07	0.05	0.04	0.02	—	—	0.00	—	—	—	—	—	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.05	0.04	0.05	0.04

※1 単位 わな:台日、銃:人日

※2 単位 わな:頭/100台日、銃:頭/人日

STEP 2 捕獲によって出沒（密度）や被害が減少したかを検証する。

■ 事業実施地域

黒部市区域、富山市区域、高岡市区域、砺波市区域、南砺市区域、氷見市区域、小矢部市区域

■ 出沒（密度）

評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前もしくは事業開始時・前半	県内の出沒メッシュ数（ニホンジカアンケート調査結果より） 令和5年度 183 メッシュ
事業実施後もしくは事業終盤・後半	県内の出沒メッシュ数 令和6年度 143 メッシュ
評価	単年度での評価は難しいため、今後も継続してモニタリングを実施し、被害低減効果を測定する。

■ 被害

評価項目	モニタリング項目・方法
事業実施前もしくは開始時・前半	天然林被害調査 〔第1期調査：平成30年～令和3年、第2期調査：令和4年～令和6年〕
事業実施後もしくは事業終盤・後半	第2期調査では、第1期調査と比較して、下層木剥皮本数被害率が増加していた。自動撮影カメラで撮影される頭数も増加傾向となっている。
評価	単年度での評価は難しいため、今後も継続してモニタリングを実施し、被害低減効果を測定する。

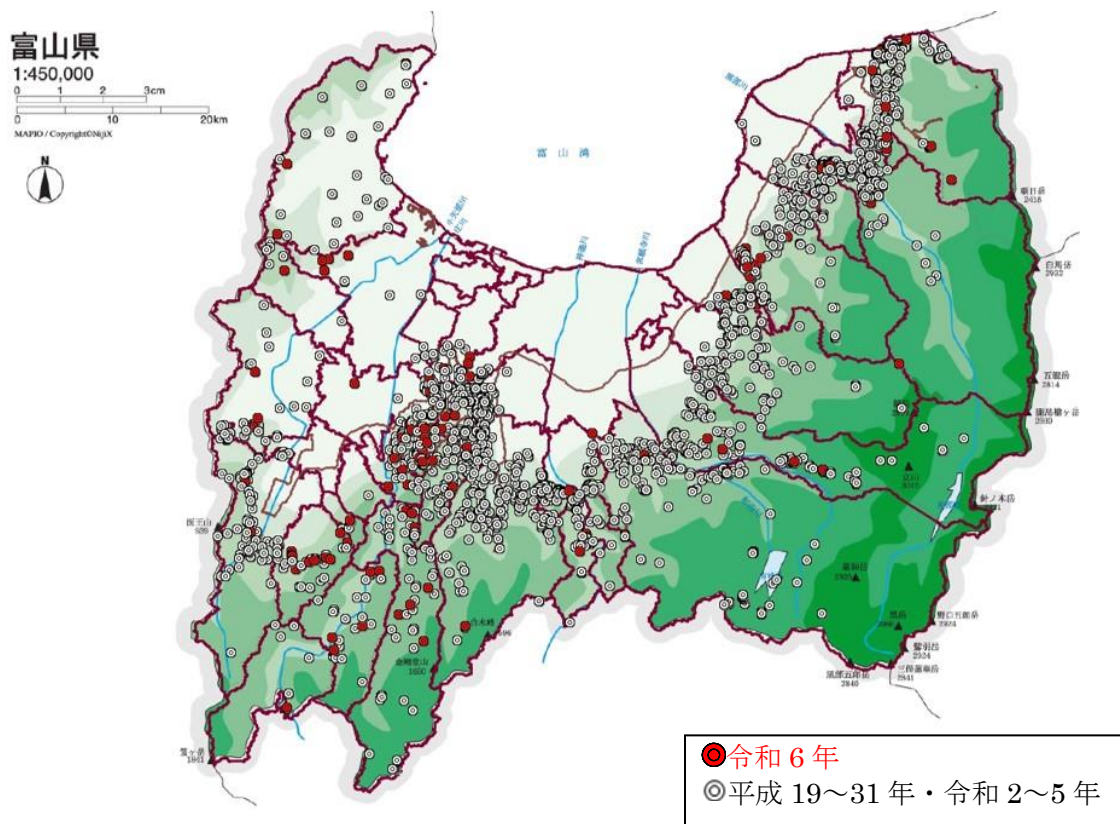


図6 ニホンジカの出沒状況

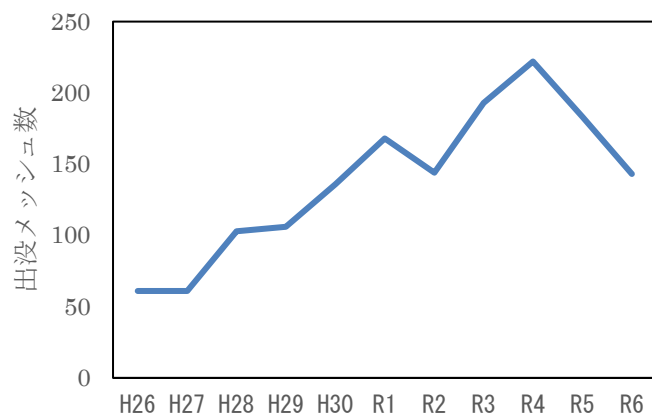


表2 ニホンジカの出沒メッシュ数の推移

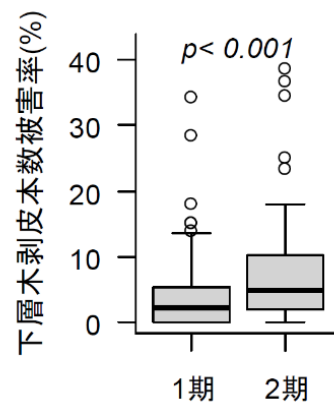
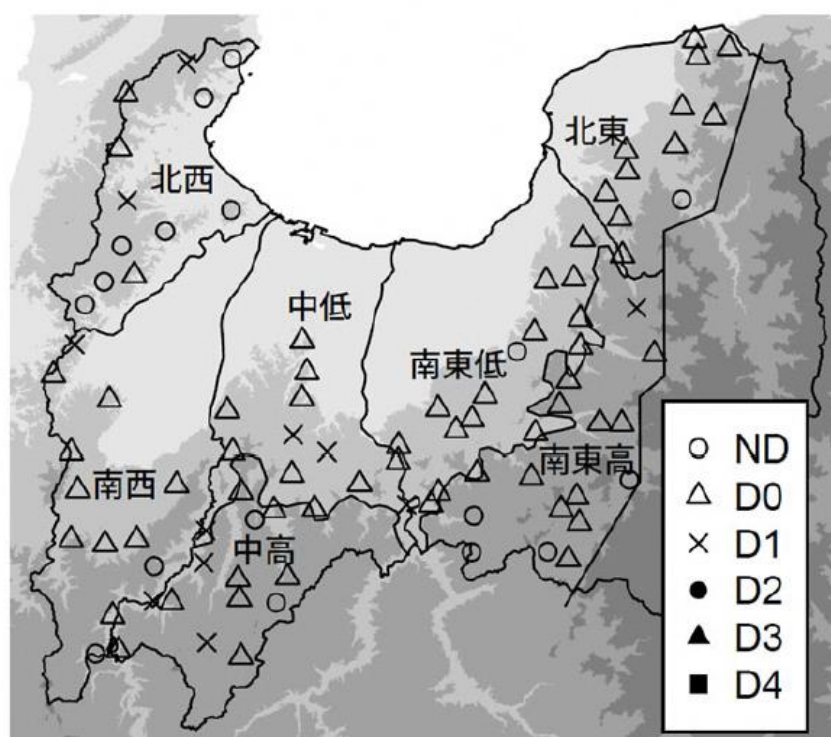


図6 下層木剥皮本数被害率の推移



下層植生	
衰退度	定義
ND	ニホンジカの食痕なし
D0	食痕あり、低木層の被度75.5% 以上
D1	食痕あり、低木層の被度38% ～75.5%
D2	食痕あり、低木層の被度18% ～38%
D3	食痕あり、低木層の被度6% ～18%
D4	食痕あり、低木層の被度～6%

図7 調査地点の下層植生衰退度

STEP 3 評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲位置・時期・手法・従事者等の見直しを行う。

■ 捕獲等事業に関する評価及び改善点 (STEP 1・2の検証を踏まえて記載する。)

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標設定】	評価：管理計画で設定している捕獲目標である 43 頭を達成。
	改善点：－
【実施期間】	評価：計画どおりの期間で実施した。
	改善点：－
【実施位置】	評価：一部地域において、捕獲専門チーム員が減少したために捕獲を実施できなかった地域があったものの、おおむね計画どおりの位置で実施した。
	改善点：富山県が新たに認定した認定鳥獣捕獲等事業者による捕獲を実施する。
【捕獲手法】	評価：計画どおりの手法で実施した。
	改善点：－
【捕獲コスト】	評価：前年度と比較して捕獲数が増加したため、1 頭あたりの捕獲コストは減少した。
	改善点：－
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：一部地域において、捕獲専門チーム員が減少したために捕獲を実施できなかった地域があったものの、おおむね計画どおりの体制で実施した。
	改善点：富山県で新たに認定した認定鳥獣捕獲等事業者による捕獲を実施する。
【個体処分】	評価：計画どおり実施した（埋設、自治体の焼却施設での焼却、自家消費）。
	改善点：－
【環境配慮】	評価：計画どおり実施した（非鉛製銃弾の使用、クマの錯誤捕獲防止のためのわな移設など）。
	改善点：－
【安全管理】	評価：計画どおり安全管理教育等を実施した。
	改善点：－
3. その他の事項に関する評価及び改善点	
くくりわなの設置について、ワイヤーなどが見えていたり、またぎ棒を多く仕掛けることなど不自然な設置になってしまっているケースが多く見られた。 改善点として、鳥獣プロデータバンクに登録されている捕獲コーディネーターを講師として、くくりわなの捕獲技術向上のための研修を対象に実施する。	
4. 全体評価	
当初の捕獲位置・捕獲体制で実施できなかった地域があったが、捕獲目標数を達成しており、全体評価としては、本事業の目的は達成できた。 ただし、後述のとおり、今後さらに捕獲を強化する必要がある、次年度事業については、わなの配置の見直しや捕獲技術向上のための研修を行う。また、捕獲専門チーム員の減少により捕獲ができなくなった地域については、認定鳥獣捕獲等事業者による捕獲を実施することで、県全体の捕獲体制を維持するとともに、個体数の増加が懸念される地域などを新たな捕獲場所として拡大していくこととする。	

■ 特定鳥獣保護・管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

	モニタリング項目・方法
特定鳥獣保護・管理計画の目標	令和6年度の捕獲目標数 241 頭 (有害捕獲及び狩猟を含む。)
寄与状況の評価	有害捕獲及び狩猟を含めた令和6年度の全ての捕獲実績は 647 頭であり、目標を達成した。 また、全ての捕獲のうち、51 頭は本事業における捕獲であった。 令和6年度に個体数推定調査を実施したところ、富山県内のニホンジカの推定個体数は約 3,700 頭(令和5年度末時点)となり、前回調査の約 1,200 頭(令和元年度末)から大幅に増加していた。 次期管理計画(R9～R13)の改定の際は、この調査結果を反映した新たな捕獲目標の設定が必要となり、ニホンジカの生息域である山林域を主な捕獲場所としている本事業についても、今後捕獲を強化する必要がある。

